

入居者インタビュー

「我以外、皆、我が師」

・・・朝来野泰宏 様 (81 歳)

～自分が自分らしく生活するのが一番～



●キリスト教との出会い

高校時代、アメリカ人宣教師との出会いがあり、時を経て洗礼を受けました。仕事柄、海外赴任が多く、赴任地それぞれの文化に馴染むのは大変でした。中東赴任中、仕事を通して、イスラムの友人も多くできました。イスラムという言葉が「平和・平安」という意味であるように、大多数は平和主義者。宗教が違い、習慣は違っても、皆仲良くなれるものです。日本でもアメリカでも、日曜学校の教師を務め、大人にも子供にも伝わる話し方を訓練させられました。人生を振り返れば、多くの人にたくさんのことを学ばせてもらったことに思いを馳せます。我以外、皆、我が師です。

●来てみたら…もっと早く来てもよかった



「秋祭り」外テーブルで

8年くらい前、妻が大きな怪我をしてしまった時、大変困りました。将来は、子供たちに負担をかけない生活をしよう…と考え、佐倉〈ゆうゆうの里〉を見学しました。いいところだな…とは思ったけれど、当時は、それ以上は考えられず。

月日は流れ、またまた妻が腰椎を圧迫骨折してしまい、生活は一変。食事にも困り、病院へ行くのも容易でなく、精神的にも、肉体的にも疲れ果てて…という状況になりました。その時に、やはり〈ゆうゆうの里〉に…と、すぐに待機登録をしました。それでも妻はなぜか入居に反対で



奥様：美智子 様

したが、妻を説得し、妻が快復して元気になってきたちょうどその頃に空室の連絡をもらい、入居を決めました。1年以上が過ぎた今では、大変満足しています。特に食事はありがたいし、おいしい。私自身よりも、妻の方がこの〈ゆうゆうの里〉での生活に満足しているかな…。今だから思うことですが、こんなに自由な生活が送れるとわかっていたら、もっと早く入居しても良かったと。

●自分らしさをこれからも・・・。

現役時代から、日記、ビジネスダイアリーに気づいたことをメモする習慣が続いています。環境が変わっても、自分の習慣は変わらない。現役引退をしても経済や国際情勢については、やはり、とても気になる場所ですから、経済誌の「The Economist」や「TIME」などを読んで、仲間たちと集まって話をするのも大事にしています。未だにやりたいこと、続けたいことがたくさんあるので、予定表にはびっしり書き込みがあります。



毎週、皆で「瞑想」します

また、何でもすぐにやるタイプです。10年前から始めたピアノはソナチネまで到達しましたが、今は忙しくなったので休止中。〈ゆうゆうの里〉に来てからは、新たに“瞑想”の時間を持つようになりました。和室(2号館共用部)に集まり、座禅または椅子に座り「瞑想」開始。無心になり、心もゆったりと落ち着く時間は“極上”とも言えます。

今までの自分でありながら、新たにやりたいこともやれる…、そんな環境が〈ゆうゆうの里〉にはあります。加えて、健康増進の設備が完備しているのも他には見られない特長です。妻は週に1回のアスレチックジム、私は週2回プールで泳ぐと決めて、理想のPPK(ピンピンコロリ)を目指しています。万全の体制を敷けたかな…と思っています。

穏やかな笑顔で、ゆっくりとわかりやすく話してくださる朝来野さん。ユーモアもたっぷりです。インタビューもとても楽しい時間でした。これからも健康増進のプログラムに続けて参加いただき、ご夫婦で毎日を楽しんで頂きたいです。